

水田で栽培された子実とうもろこしの収穫が行われました

～専用アタッチメント「スナッパヘッド」で無理なく無駄なく収穫～

担い手支援課 令和4年8月31日発

8月18～22日に成田市及び佐倉市において、子実とうもろこし(8.5ha)の収穫が行われました。専用アタッチメント「スナッパヘッド」を取り付けたコンバインで、2mを超える草丈のとうもろこしが吸い込まれるように刈り取られていきました。「スナッパヘッド」により茎葉と穂を分け、穂だけがドラムに入り効率的に脱穀されるため、コンバインへの負担が少なく、収穫ロスが少なくなる利点があります。今年は播種後に雨が多く湿害が心配されましたが、倒伏もなく順調に作業が行われました。

当日は生産者や関係機関26名も収穫作業を視察し、栽培に取り組む生産者や試験を行っている農研機構の研究員、機械メーカーから、栽培のポイントや生産拡大する上での課題などを熱心に質問していました。担い手支援課では、これからも担い手農家の経営改善につながる情報提供を行います。



スナッパヘッド装着のコンバイン



視察者からの質問に答える生産者ら